

NPOワンポイントアドバイス!

組織にとって、「会議」は切り離せません。
 だからこそ、会議のタイプ別攻略法を知っているかどうか、運営には欠かせません。
 前は会議の10のタイプについてお伝えしました。
 今回からは、タイプ別に具体的な攻略法をお伝えしていきます。

1. 顔合わせ会議

〈団体やプロジェクトを始めようとする時の1回目の会議の攻略法〉

初対面の人同士だったり、これからどのような進め方になるのか等が分からないので、参加者は緊張しています。従って、緊張をほどよく解いていくことと、これからの進め方についての土台づくりが必要になります。

攻略法①

自己紹介を効果的に活用しましょう。単に、「〇〇(団体名など)からきた××です」ではなく、「なぜ、このプロジェクトに参加しようと思ったか?」や、「活動の原点」を話してもらうとその後の意見交換の素材が生まれ、個人的な趣味・特技・好きなことなどからは話題が発展しやすくなります。いきなり大勢の前で話すのではなく、まず周りの2~3人で自己紹介しあうことで参加しやすくなる場合もあります。

攻略法②

異なるセクターが集う会議の場合は、今後の進め方や雰囲気について共通認識を決めることも大切です。比較的慎重にゆっくり決めていくのか、リーダーにある程度権限を委任していくのか、など、1回目の会議で土台づくりをしましょう。

2. 定義を定める会議

〈組織やプロジェクトの重要な概念や、定義、組織名、目標などを決める会議の攻略法〉

この会議に参加することで、メンバーは自分たちの組織の役割や意志を確認し、自分自身がどう関わっていくのかを決めることになります。つまり、決定に参加することで当事者意識が強くなるという、重要な会議です。

攻略法③

「アイデア出し→案を絞る→最終決定」の各段階で、(過度の負担にならない程度に)参加者の枠を広げていくことも効果的です。

攻略法④

組織の理念や目標は、高尚過ぎる言葉ではなく共感を生む表現にしましょう。

参考:青木将幸著『市民の会議術 ミーティング・ファシリテーション入門』ハズオン埼玉出版部



センター長のつぶやき

まちづくりセンターセンター長 丸藤 競

SDGs(エスディーゼズ)という言葉を知っていますか?日本語では、「持続可能な開発目標」と言います。でも、これだけ聞いても何のことか分からないかもしれません。

貧困や格差の拡大、環境の悪化など様々な課題が世界規模で深刻になっています。このままでは地球がもたないということで、日本を含め世界193か国の指導者が集まり、世界をつづけていくために2030年までに達成しなくてはならない17の目標、169のターゲット、230の指標を採択しました。それが

SDGsです。貧困のない世界を目指すことを一番の軸に、「誰ひとり取り残さない」を合言葉にしています。社会・経済・環境の三側面が包摂されていて、世界を共通の物差しで測り様々な活動をつなげていくことで、「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」に「将来よし」「地球よし」の2つを加えた5方よしにしていくことが、大きな理念になっています。

壮大な夢物語のように受け止める方もいるかもしれませんが、成功のカギを握るのは私達市民の意識です。SDGsは法的な枠組みではありません。だからこそ、その国の市民ひとりひとりができることを行い、不断のプレッシャーをかけ続けていかなくては意味がないのです。市民が行動するだけでなく、行動してそれが世界に反映される時代をつくる。SDGsは、その道具になるとも言える新しい取り組みです。